

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 6 月 1 日現在

機関番号：12603

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2009～2011

課題番号：21320075

研究課題名（和文）朝鮮語史の国際的共同研究のための研究資源基盤構築

研究課題名（英文）Construction of research resources for the international collaboration study of Korean historical linguistics

研究代表者

伊藤 英人（ITO HIDETO）

東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・准教授

研究者番号：80251560

研究成果の概要（和文）：本研究では、中期、近代、現代の朝鮮語文献のうち、朝鮮語史研究上重要と思われる文献を選定した上、原本・関連資料調査を行い、電子化を進めた。また国内所蔵の重要朝鮮語文献について、文献解題を執筆する一方、韓国語目録を作成した。作成したデータ類については、www サイト上で公開した。更に、蓄積したデータ類を用い、朝鮮語史統語論・形態論・音韻論研究における様々なトピックについて研究を行った。

研究成果の概要（英文）：In this project, we investigated and digitalized historical documents from Middle, Modern and early Contemporary Korean, which will play a significant role in future research on Korean historical linguistics. We also made a bibliography and a catalog of Korean historical documents that are stored in libraries in Japan. These databases were made available as on-line resources. Based on the data we constructed, we conducted research on various topics in Korean historical syntax, morphology and phonology.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009 年度	4,800,000	1,440,000	6,240,000
2010 年度	4,600,000	1,380,000	5,980,000
2011 年度	3,600,000	1,080,000	4,680,000
年度			
年度			
総計	13,000,000	3,900,000	16,900,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学

キーワード：朝鮮語，電子化，データベース，歴史言語学，形態素解析，言語接触

1. 研究開始当初の背景

中期朝鮮語～現代朝鮮語の研究は、ひとり韓国にとどまらず国際的な広がりを見せているが、中期・近代朝鮮語重要資料は、その複製（影印本）が入手困難であったり、大部の文献は、未だにその検索自体も容易でないなど、研究資料へのアクセスの困難さが研究の進展を阻害している。中期～現代朝鮮語という、500年以上の長期に渡る朝鮮語史につ

いて、今後国際的に共同研究を進展させていくためには、まず基本的研究資料を研究資源として国際的に共有するための基盤を構築することから始めなければならない。

一方中期～近代朝鮮語は、現代ハングルとは異なる表記法を持つために、複数の研究者が、それぞれ異なる形式で電子化を行ってきた。これら電子化テキスト中の形態素分析においては、研究者により、また対象文献により様々な工夫がなされてはいるが、これらを

単に集積するだけでは、研究資源としての（精度の高い）共有は不可能である。したがって、今後朝鮮語史研究のための国際的研究資源共有を実現していくためには、まずデータ形式の改良・洗練を検討した上、原本調査等に基づく電子化資料の作成を進める一方、朝鮮語史の統語論・形態論・音韻論的研究の各側面からその有効性を検証していく必要がある。

2. 研究の目的

1. で述べたような背景を踏まえ、本研究では、(1) 中期～現代朝鮮語の既存の電子化形式を比較検討し、電子化データを有効に活用するためのデータ形式について研究を行うこと、(2) 各時代の朝鮮語研究に必須の文献の電子化・テキスト化を進める一方、朝鮮語史の統語論・形態論・音韻論的研究の各側面からその有効性を検証すること、(3) 朝鮮語史研究資源共有の基盤を構築し、公開することで、朝鮮語史の国際的共同研究へ寄与すること、の3点を主要な目的とする。

3. 研究の方法

(1) 電子化対象テキスト類の選定と調査・電子化

中期、近代、現代の朝鮮語から、それぞれ電子化に資する特徴をもつ、国内外所蔵の諸文献を選定する。それに基づき、可能な範囲で原本の書誌的調査を行い、写真を取得し、電子化（テキストファイル化、PDF化）を行う。テキストファイル化に際しては、入力するデータ形式（入力方式）について検討する。一方、国内所蔵の重要な朝鮮語文献について、解題執筆・目録作成を行う。

(2) 構築データの公開準備

得られたデータ及び研究成果を、オンラインデータベースとして可能な限り公開する。

(3) 小倉進平主要著作の電子化・公開

朝鮮語史研究上重要な著作である小倉進平（1944没、著作権消滅）の主要研究論文を電子テキスト化し、オンラインデータベースとして公開準備を進める。

(4) データ形式の洗練・研究現場への試験的適用

構築した電子化テキスト類を用い、朝鮮語史統語論・形態論・音韻論研究における様々なトピックについて、分担者・連携研究者がそれぞれ実際に試験的研究を進め、その問題点や汎用性について更に検討を行う。

4. 研究成果

(1) 電子化対象テキスト類の選定と調査・電子化作業

中期、近代、現代の朝鮮語文献のうち、各時代の担当者が朝鮮語史研究上重要と思われる文献を選定した上、原本・関連資料調査を行い（日本・韓国・米国）、研究資料の取得（朝鮮資料原本『御定奎章全韻』等取得）及び、重要朝鮮語文献（東京外国語大学図書館、東京外国語大学朝鮮語専攻長田文庫、東京大学文学部小倉文庫所蔵）の高精度デジタルカメラによる撮影を行った。また、中期～近代朝鮮語資料の入力方式について検討し、定式化を行い、その上で各種テキストの入力・校正作業を進めた（『釈譜詳節』、『蒙山法語診解』等、中期朝鮮語傍点付き資料、『翻訳老乞大』『千字文』等漢字音資料のテキスト入力・校正、司訳院漢学資料）。開化期～20世紀の朝鮮語を知る上で重要な資料である新聞・雑誌等についても、PDFファイル化とテキスト入力を行った。更に、電子化済テキスト類について、フリーソフトによる形態素解析を試験的に行い、それにより分かち書きの単位や形態素解析用の辞書構築に関する研究も行った。一方、入力したテキストファイルに基づき KWIC 索引を作成し、それを元に中期朝鮮語アクセント資料の構築・拡張を進めた。中期朝鮮語アクセントが保存されている現代朝鮮語方言についても、中期朝鮮語からの歴史的変遷が分かるよう、資料の編集を行い、史的アクセント資料との対照研究に備えた。

(2) 解題及び目録の作成

撮影済の東京外国語大学図書館、長田文庫蔵朝鮮語文献について文献解題を執筆する一方、『長田夏樹先生旧蔵朝鮮語学関連図書目録』を作成し、主要研究機関に送付した。撮影文献中『象院題語』については、中華書局から影印が刊行された。また東京大学文学部小倉文庫（朝鮮語文献を多く所蔵する）所蔵の全文献について、韓国語目録を作成した。撮影済の小倉文庫所蔵朝鮮語文献については、現在 www サイト上での公開準備を進めている (<http://krling.com/>)。

(3) 電子化データ類の公開

(1)、(2) で作成したデータ類の一部について、www サイト上で公開した。

① 中期朝鮮語文献の統合検索（声調情報付き）

<http://krling.com/KRTEXT/>

中期朝鮮語語彙の具体例を複数の文献に渡って検索することや、アクセント（声調）パターンのみで検索（例：平声・上声の連続の検索）を行うことなどが可能

である。

- ② 東京外国語大学図書館, 東京外国語大学朝鮮語専攻長田文庫所蔵朝鮮語文献解題, 開化期～20 世紀までの新聞・雑誌等の PDF ファイル・テキストファイル公開 <http://krling.com/KRMODERN/downloadable/>
上記資料について, 該当サイトからダウンロードが可能である。
- ③ 中期朝鮮語アクセント資料 <http://krling.com/KRDICT/>
中期朝鮮語アクセント情報について, 中期朝鮮語・現代朝鮮語・アクセントパターンの3通りからの検索が可能である。
- ④ 現代朝鮮語方言アクセント資料 (中期朝鮮語アクセント情報付き) <http://krling.com/KRACC/>
現代朝鮮語方のうち, 慶尚道釜山方言と中国吉林省延辺朝鮮語の単純名詞について, そのアクセントパターンを検索することが可能である。中期朝鮮語形が attest されているものについては, その情報も参照できる。また各語彙について, 日本語訳と英語訳を掲載した。
- (4) 小倉進平主要著作の電子化・公開
朝鮮語史研究上重要な著作である小倉進平 (1944 没, 著作権消滅) の主要研究論文中, 「南部朝鮮の方言」「郷歌及び吏読の研究」と「国語及び朝鮮語のため」[増訂]朝鮮語学史について電子テキスト化し, オンラインデータベースとして公開した。
<http://www.krling.com/KRHIST/>
- (5) データ類の研究現場への適用
撮影データ・電子化済のテキスト類を用い, 朝鮮語史統語論・形態論・音韻論研究における様々なトピックについて研究を行った。例えば, 朝鮮語史の観点からの「中韓言語接触」に関する研究 (伊藤 2011), 日本における, 特に戦後の朝鮮語教育史に関する研究 (伊藤 2012), 中期朝鮮語各種文献に見られるアクセント研究 (15 世紀の楽譜である『致和平譜』に反映されたアクセントの研究 (福井 2010a, b), 複合語アクセント研究), 中期朝鮮語～現代朝鮮語における形態変化と類推に関する研究 (Ito 2010), 近代文献『捷解新語』における現在形の研究・音注とテキスト分析 (村田 2011), 15 世紀朝鮮語文献の自動形態素解析に関する研究 (村田 2010, 須賀井・村田 2011), 起点的意味を表す中期朝鮮語の諸形式に関する研究 (趙 2009), 東京大学小倉文庫所蔵文献に関する研究 (福井 2011, 2012), 中期朝鮮語複合名詞における属格 /-s/ の分

布に関する研究, 開化期～20 世紀までの新聞・雑誌に現れる否定文使用の傾向に関する研究 (南 2011), 等を行った。これら研究を進める中で, 既存データの有用な点・問題となる点の検討を行い, 必要に応じデータ形式を更に洗練させた。研究成果のほとんどは, 学術論文・著書・学会発表の形で公開済である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 14 件)

- ① 伊藤英人. (2012). 「朝鮮語発音教育の問題点」『中国語教育』45, 45-64, 査読有.
- ② 福井玲. (2012). 「中村庄次郎筆写本『酉年工夫』の語学的特徴」『韓国朝鮮文化研究』11, 2-10, 査読無.
- ③ 伊藤英人. (2011). 「朝鮮時代の近世中国語の「翻訳」について」『東京外国語大学論集』83, 89-109, 査読有.
- ④ 趙義成. (2011). 「チアチア語のハングル表記体系について」『学術論文集』24-34, 査読無.
- ⑤ 南潤珍. (2011). 「小説資料でみる 20 世紀韓国語否定文の使用の様相 (原文韓国語)」『韓国語と文化』9, 289-318, 査読有.
- ⑥ 村田寛. (2011). 「原刊本『捷解新語』に現れる朝鮮語の現在形に関する一考察」『人文論叢』(福岡大学) 42-2, 1003-1028, 査読無.
- ⑦ 須賀井義教・村田寛. (2011). 「15 世紀朝鮮語の形態素解析について」『近畿大学教養・外国語教育センター紀要 (外国語編)』(近畿大学教養・外国語教育センター) 1-2, 41-56, 査読有.
- ⑧ 福井玲. (2011). 「小倉文庫の特徴について —中世語資料と対馬関連資料を中心に—」『奎章閣』39, 241-376, 査読有.
- ⑨ 伊藤英人. (2010). 「朝鮮半島の書記史—不可避の自己としての漢語—」『続「訓読論」』(勉誠出版), 143-161, 査読無.
- ⑩ Ito, Chiyuki. (2010). “Analogy and lexical restructuring in the development of nominal inflection from Middle to Contemporary Korean”, *Journal of East Asian Linguistics* 19-4, 357-383, 査読有.
- ⑪ 村田寛. (2010). 「15 世紀朝鮮語の形態素解析の試み—MeCab を利用して—」『福岡大学研究部論集 A: 人文科学編』10-3, 17-28, 査読無.
- ⑫ 福井玲. (2010a). 「致和平譜に反映した中世語声調について (原文韓国語)」『国語学』(韓国国語学会)57, 287-301, 査読有.

- ⑬ 福井玲. (2010b). 「致和平譜に反映した中声韓国語声調のアクセント論的解」『東京大学言語学論集』29, 3-16, 査読有.
- ⑭ 趙義成. (2009). 「起点的意味を表す中期朝鮮語の諸形式について」『朝鮮半島のことばと社会——油谷幸利先生還暦記念論文集』187-213, 査読無.

[学会発表] (計 10 件)

- ① Ito, Chiyuki. “Emergence of the OCP: A case study of compound tensification in Yanbian Korean”, the 7th International Workshop on Theoretical East Asian Linguistics (TEAL-7), 2012年2月18日, 広島大学.
- ② 福井玲. “Tongguk chongun and the phonological system of Middle Korean”, The Hunmin jeongeum Society, 2011年10月8日, Seoul National University, Seoul.
- ③ 伊藤英人. 「朝鮮語発音教育の問題点」中国語教育学会, 2011年5月28日, 愛知大学.
- ④ 南潤珍. 「日韓対照研究と韓国語教育」第70回言語情報研究院学術発表会, 2011年4月29日, (韓国) 延世大学言語情報研究院.
- ⑤ 伊藤英人. 「朝鮮時代近代中国語「翻訳」に対する考察とその展望 (原文韓国語)」, 第2回韓日韓国言語・文化国際学術大会, 2011年2月19日, 東京外国語大学.
- ⑥ 福井玲. 「小倉文庫の特徴について—中世語資料と対馬関連資料を中心に— (原文韓国語)」, 奎章閣韓国學研究院古文献国際ワークショップ 2010, 2010年12月22日, 慶南大学校 (韓国).
- ⑦ 南潤珍. 「類義関係からみた日本語と韓国語の語彙の対応関係」東京外国語大学国際日本研究センター 対照日本語部門『外国語と日本語との対照言語学的研究』第3回研究会, 2010年12月18日, 東京外国語大学.
- ⑧ 福井玲. 「捷解新語の音注とテキスト分析」朝鮮語歴史言語学のための共有研究資源構築(東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所共同研究プロジェクト研究会), 2010年12月4日, 東京外国語大学.
- ⑨ 村田寛. 「原刊本『捷解新語』に現れる朝鮮語の現在形に関する一考察」, 日韓言語学会議, 2010年11月13日, 麗澤大学.
- ⑩ 南潤珍. 「小説資料でみる20世紀韓国語否定文の使用の様相 (原文韓国語)」, 日韓言語学会議, 2010年11月12日, 麗澤大学.

[図書] (計 2 件)

- ① 趙義成 (訳注). (2010). 『訓民正音』, 平凡社, 290 ページ.
- ② 遠藤光暁・伊藤英人・鄭丞恵・竹越孝・更科慎一・朴真完・曲暎雲 (編) (2009). 『訳学書文献目録』, 博文社, ソウル, 253 ページ.

[その他]

ホームページ等

<http://www.krling.com/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

伊藤 英人 (ITO HIDETO)

東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・准教授

研究者番号：80251560

(2) 研究分担者

伊藤 智ゆき (ITO CHIYUKI)

東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所・准教授

研究者番号：20361735

趙 義成 (CHO EUI-SUNG)

東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・准教授

研究者番号：20343725

南 潤珍 (NAM YUNJIN)

東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・准教授

研究者番号：30316830

村田 寛 (MURATA HIROSHI)

福岡大学・人文学部・教授

研究者番号：30346738

(3) 連携研究者

豊島 正之 (TOYOSHIMA MASAYUKI)

東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所・教授

研究者番号：10180192

福井 玲 (FUKUI REI)

東京大学・人文社会系研究科・准教授

研究者番号：50199189